

The Importance of Learning English and Why it Should be Fun

英語学習の重要性、そして英語学習が楽しい理由



PROFILE

ETS 国際教育部門
副社長兼 COO

デーヴィッド・ ペイン氏

Educational Testing Service (ETS) は、1947年に設立され、米国ニュージャージー州プリンストンに拠点を置き、TOEICやTOEFL、SAT (全米大学入学共通試験)、GRE (大学院入学共通試験) を含む約200のテストプログラムを開発している世界最大の非営利テスト開発機構。ペイン氏は、国際教育部門の副社長兼COOとして、GREやTOEFLプログラムを統括している。2011年には、GREの問題形式やスコア基準の改定を監督し、過去60年間のテスト評価に大きな変化をもたらした。国内外問わず大学機関や専門的研究機関市場でのテスト評価のニーズ特定に貢献している。

教育やビジネスにおいて英語が国際語となった今、かつてないほど多くの方が世界中で英語を学習しています。私もETS (Educational Testing Service) の使命は、世界中の人々の学びを推進し、教育と専門能力の向上を支援することです。私もは学習者の皆さんが抱えている、英語圏での進学や就職といった夢を叶えるための手伝いを精一杯しております。

英語需要は、英語試験として世界で最も広く認識され、利用されているTOEFLやTOEICの受験者数の増加を見れば明らかです。私もETSがこのテストを作成していますので、これをお読みになっている皆さんは、英語学習の重要性となぜ英語学習が楽しいかという点における、私どもの見解にご興味がおありかもしれません。

1964年の作成以来、何十万人もの日本人を含む2700万人以上がTOEFLを受験しています。TOEICは、日本では1970年代にスタートし、2013年だけでも700万人以上が受験しました。「最高の英語学習法は何か？英語学習はどうしてこんなに大変なのか？」ETSで英語の各種試験プログラムに携わっていると、よくこう聞かれます。そんな時私は、「どの第二言語も学ぶのは難しいが、楽しくできないわけではない」と言っています。新しい言語を習得するカギは、小さい頃から母語の発達に重きを置きながら、その言語に触れる機会を多く持つことです。

学校での早期英語教育を導入している国が増えています。日本では小学校5年生から英語を学び始め、中学校・高等学校でさらに徹底した英語教育を受けます。小学校での英語教育の導入を3年生からにするとの文部科学省の方向性は、早期英語教育における前進と言えるでしょう。しかし、英語学習を始める時期にかかわらず、最良の英語学習法には、魅力的な教材と優秀な教師、「リスニング・リーディング・ス

[英語原文です。]

More people around the world than ever before are studying and learning English because it has become the international language of education and business. Our mission at Educational Testing Service(ETS) is to promote learning and support education and professional development for people worldwide. We work hard to help learners pursue their dreams of higher education or getting a good job in English-speaking environments worldwide.

The popularity of English can be seen in the growing number of people taking the TOEFL and TOEIC tests, the most widely used and accepted English exams in the world. ETS creates these tests and for this reason, perhaps readers might be interested in our perception on the importance of learning English and why it should be fun.

Since its creation in 1964, more than 27 million people have taken the TOEFL test, including hundreds of thousands in Japan. The TOEIC test, which began in Japan in the 1970s, was taken more than seven million times in 2013 alone.

Working at ETS, and working with our English language testing programs, people often ask me, "What is the best way to learn English and why does it have to be so hard?" I tell them that learning any second language is hard, but that doesn't mean it can't be fun at the same time. The key to mastering a new language is providing opportunities at an early age while also emphasizing the development of one's native language.

More and more countries are introducing English-language instruction earlier in school. Japanese students begin learning English in the fifth grade and receive more intensive instruction in junior high and

ピーキング・ライティング」の4技能を活用して日常会話力を高める機会が欠かせません。イーオンは40年以上かけて、日本でトップクラスの英語教育機関の1つとして大きく成長しました。イーオンには学習者を惹きつける熟練した技があります。

昨年の秋、ETSのマスターインストラクターが2名来日し、各地でイーオン教師の研修を担当している本部トレーナー陣に向けて、TOEFLのプロペルワークショップ(Propell Workshop)を開催しました。実際にTOEICやTOEFLの開発をしている、この2名のマスターインストラクターの集中講座を通じて、参加したトレーナー陣はとても効果的な新指導技術を身につけました。その技術は、統合技能アプローチを活用するもので、第二言語として英語を学習する日本の生徒が、目標スコアを取るために役立つでしょう。また最近では、ETSの子会社であり、英語学習ソリューション提供のパイオニアの1つであるEdusoftがイーオンとオンラインのアカデミック・リーディングコース「パワーアップリーディング(Power Up Reading)」をイーオン生のために作成いたしました。これはイーオンのセルフスタディプログラムの1つです。3ヶ月間で修了するコースで、12回の中級の長文読解と修了テストが付いています。イーオン教師には、受講生の進捗がわかる週毎の個別レポートが届き、受講生は受講期間中EdusoftのDiscoveries Magazine (様々なトピックを扱った英語記事) に自由にアクセスできます。

日本は今、激動の時代を迎えています。私もETSが抱える語学専門家は、日本政府における最近の教育改革の取り組みを常にチェックし見守っています。そして、日本の学習者、教師、専門家の皆さんが英語コミュニケーション力、ひいては、国際競争力を上げるサポートをするのを楽しみにしています。

high school. MEXT's call to introduce English-language instruction in third grade is a positive step in that direction.

But regardless of when you begin learning English, the best way to do so is with engaging materials, talented teachers and an opportunity to develop everyday conversational ability utilizing the four skills — listening, speaking, reading and writing. For more than 40 years AEON Corporation has grown to become one of the leading private educational institutes of its kind in Japan. They know how to engage learners. Last fall ETS master instructors came to Japan to offer a special Propell Workshop to AEON trainers from across the country. These master instructors develop actual TOEIC and TOEFL tests and by the time the intensive workshops were over, participants had new and powerful techniques to using the integrated-skills approach to teaching Japanese students English as a second language and preparing them for success.

Also, recently, Edusoft, a subsidiary of ETS, and itself one of the pioneering companies offering English learning solutions, worked with AEON to create Power Up Reading, a customized online academic reading course for its students. It is a self-study program monitored by AEON teachers. It is three months long, has 12 intermediate-level reading comprehension lessons and a final test. It also offers a customized weekly report about students' progress for AEON teachers and students have access to Edusoft's interesting Discoveries Magazine.

This is an exciting time in Japan. Our English language experts are following current reform efforts, and we look forward to supporting Japanese students, teachers and professionals improve their English communication skills, and by extension their global competitiveness.

巻頭 特集

グローバルステージで 活躍するイーオン生

グローバルステージで活躍するイーオン生を紹介します。

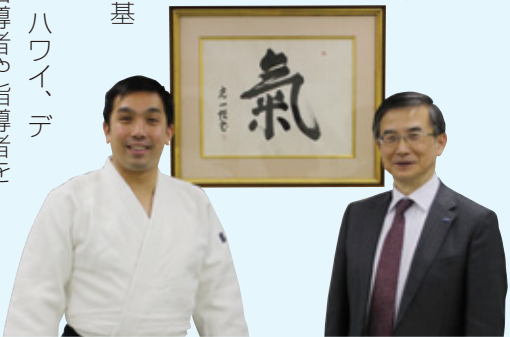
海外にも支部をもつ心身統一合気道会の会長としてご活躍の藤平信一さんは、イーオン新宿アイランドタワー校に約10年通学する生徒様。その活躍の様子をご紹介します。

合気道と英語のつながり

私は合気道という武道の指導と普及を行っています。父・藤平光一が創設した心身統一合気道の継承者です。

私の指導先は各種スポーツ団体や、経営者の方など多岐にわたります。また仕事の大半は「指導者育成」に充てられます。指導させていたたく根幹にあるのは「氣の原理」です。合気道の土台は姿勢と呼吸にあり、これがあらゆる分野の基礎となります。

毎回場所は異なりますが、シアトル、オレゴン、ハワイ、デンバー、ラスベガスなど、年に1回、海外でも指導者や指導者を目指す方を対象とした講習会に出向いています。日本でも在住外国人の会員もいらっしゃいますので、英語を使う機会が多いのです。



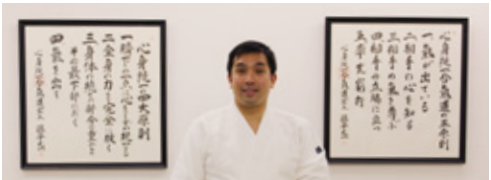
心身統一合気道会 東京本部にて。イーオン社長の三宅義和と。

大リーグ・L.A.ドジャースに 「氣」の指導をするきっかけと気づき

広岡達朗氏（ヤクルト・西武の元監督）が、親交のあるドジャースから「氣」の指導ができる人を紹介して欲しいとオファーを受けました。広岡さんは野球上達のため合気道も学ばれており、父を師としていました。つねづね「合気道は野球界に革命を起こさせる可能性がある。これを大リーグに認めさせたい」と仰られていたのです。コーチが「氣の原理」をベースに野球を指導すると、選手が良いプレーを体得しやすいと、広岡さんは考え、実践されています。どれだけフィジカルトレーニングをしても、その瞬間に意識が上がると姿勢が崩れてしまいます。日ごろから心を鎮める練習をしておかないといけません。心身両面で実現することが必要です。最高の能力を発揮するためには、野球だけやっていると、こうした考え方に至りづらい。ドジャース側にもフィジカルトレーニングはやり尽した感がある。ちょうどWBC（ワールドベースボールクラシック）で日本が優勝したこともあり、これは日本の強さの中に何かあるのではないかと。私は英語の心配や野球の知識が乏しいこととの心配もあったのですが、家内がそのオファーを受けてしまったんです（笑）。

野球では観客の野次や、選手同士で乱闘になることがありますから、心を鎮める方法が必要と、ドジャースは考えていたようです。私が指導したのはマイナーリーグですが、日本野球の2軍3軍とは違います。彼らは教育機関としてとらえていて、どんなに有名・有望な選手であっても少なくとも3〜4年はマイナーリーグで基礎教育をします。ドジャースは育成力に優れていました。地域への貢献、マスコミへの対応の仕方、ファンとの交流の仕方、お金の使い方など様々な指導の中に、「氣」も取り入れたのです。当初、180名のマイナー選手のうち20名程度の指導だったのが、回を重ねるごとに評判を呼び、最終的には80名ほどの指導をしていました。体で納得することには言葉の壁はそれほど感じることはありませんでした。

「心身統一合気道」



1974年、合気道十段の藤平光一宗主によって創始された武道。「氣の原理（心が身体を動かす）」に基づき、「人間が本来持っている能力を最大限に発揮すること」「相手の心を尊重し導く」ことを伝える。これらは何事行う上でも土台であり、スポーツ・芸術・経営・教育など様々な分野で活用されている。2007年に会長藤平信一が心身統一合気道会とする。2010年4月に一般社団法人化。全国39都道府県に約400教室。海外24か国にも展開。全世界で会員約5万人（H24.6月現在）。

藤平信一氏は、幼少から藤平光一（合気道十段）より指導を受け、心身統一合気道を身に付ける。現在は、心身統一合気道の継承者として、国内外で指導・普及に従事。心身統一合気道を人材育成に活用し、経営者・リーダー・アスリート・アーティストなどを対象とした講習会、教育機関での講演会、企業研修で指導。2010年1月からは、米国・大リーグのロサンゼルス・ドジャースの依頼により、若手有望選手の育成に参加し、選手・コーチに心身統一合気道を指導。著書「心を静める（幻冬舎）」。「鼎談「動じない。（幻冬舎）」広岡達朗・王貞治・藤平信一著。

イーオンで学んだ英語が、 世界で活躍するチャンスをくれました！

学生時代は、英語は得意ではありませんでした。センター試験では満点だったと思いますが、「コミュニケーション力」という点では全く駄目でした。初めての海外指導で一番困ったことはまさに「英語」でした。その時は通訳に入ってもらったのですが、実は私にとってはそれが、とても屈辱的に思えました。通訳を介すると言葉が意味以上に削られてしまいます。あの時は、自分の努力不足に対して、相当に悔しい思いをしました。そんな時に、三宅社長を通じて、英語トレーナーの葉袋先生（イーオン東京本社教務課）にお会いしました。先生の説明はとても明快で、何がわからないのか、何を自指したいのか、そのために何をすべきかをとてもクリアしてくれました。中でも「音読」の指導はとても上達効果を感じました。高度なものでなく、よい、中学生程度の教科書レベルでもよいと言われて気が楽になりました。また、1日1つずつ新しいことをやるのではなく、同じものでもよいので1週間くらい続けるというのも気軽でした。家では普段、家内が帰国子女のため、テレビを副音声で聞いているのですが、3〜4ヶ月位したときに、英語音声がかかるようになっていきました。感覚が養われるまでは、本当にこれで上達するのだろうかかと正直に言えは思っていました。でも上達することがわかれば、継続する気になりますよね。その学習効果の甲斐もあって、翌年からの海外指導で困ることはなくなったのです。



イーオンに通学して、素晴らしいと思うことが2つあります。1つは教材です。いまASPIREに取り組んでいますが、トピックも刺激的です。また教材の随所に遊び心を感じる個所もあり、制作の方の心遣いを感じます。難しくて泣き出しそうな時もありますが、楽しんでやっています。もう1つは、イーオン教師の方が持つ「プラスの氣」ですね。当然、生徒の英語というのは完ぺきとは程遠いわけです。もしマイナス面ばかりをみられてしまうと、ここもできていない、ここがわかっていないと、マイナスな人はどうしてもマイナスな面に目が行くと思います。1つのがよくなった時にも、そこを見てくれるから生徒はやりがいを感じる。プラスに伸ばしていただいていると実感しています。教材の良さだけでなく、それを教える先生が素晴らしいと思います。直の「コミュニケーション」がいかに大切かということ。直接指導を受けるその空気感とでもいいますか。例えばテキストを読んで、道を探る練習をしても切迫感が違う。そういう状況下において真剣に訓練をしないこと、実際の現場で使えないということがよく分かりました。

私には夢というか、ミッションという呼び方をしていますが、心身統一合気道を通して、世の中をプラスになるように貢献したいと思っています。そのためには良い指導者を育てることが必要で、なぜなら良い指導者が良い生徒さんを育てますよね。我々の場合には、良い生徒さんの中から良い指導者が出てきますので、それに尽きます。イーオンにも同じ理念を感じることがあるんです。私自身がそうでしたが、英会話学校に通うだけでは英語は上達はしないんです。これは本当に多くの方が勘違いしているんですが、やっぱり正しいトレーニングが必要ですよ。そのトレーニングの環境として、イーオンは掛け値なしにいいと思っています。ですからこれからは全国のイーオン生の皆さんと一緒に「正しい」訓練をしていきたいと思っています。



マイペースを保ちながら勉強していく事が大切!

私は高校時代まで英語がとても苦手でした。しかし大学に入って沢山の海外の人と話す機会があり、英語でコミュニケーションを取る楽しさをそこで知り、同時に私自身英語が嫌いではない事を知りました。大学で楽しいと思いついた英語をもっと学びたい!と思った事が私のイーオンに通い始めたきっかけです。

イーオン札幌本校のクラスでは、年齢も職業も趣味も違うクラスメイトと会話するのが毎回新鮮で楽しく、英語以外の事でも多くの事を勉強させて頂いています。レッスンがきっかけで沢山の方と触れ合い、自分の知らない世界を知る事が出来たり、自分の趣味や興味のある事を話す事が出来るイーオンのレッスンは、私にとって、大切に充実した時間です。

イーオンで出会った先生やスタッフ、クラスメイトの方々のおかげで、海外に行っても積極的に話してみようと思うようになりました。自然に身に付いた積極性と英語力に私自身が一番驚いています(笑)。私自身、英語が苦手という所から始まり、まだまだ完璧に英語を話せる訳ではありませんし、レッスンで分からない事も沢山あります。だからこそイーオンに長くこれからも通学し、自分のペースを保ちながら勉強していく事が大切だと思っています。高校時代に英語が苦手だった私が、今では積極的にレッスンやロビーで英語を話している姿を以前は全く想像していませんでした。

これからもイーオンの先生や他の生徒の方と一緒に楽しくマイペースで通い続けていきたいと思っています。



本間 佳麗 様(会社員)
札幌本校[北海道]



林 一美 様(主婦)
塚口校[兵庫県]

主人の両親を送り子供達も手が離れ、主人より「好きな事をしてほしい」とお許しが出たので、私はツアーで25か国を文字通り羽が生えた様に飛んでいきました。
4、5年経つと、ツアーではなく、個人で国内を旅するように外国をぶらりと気の向くまま行ってみたく思う様になりました。そのためにはガイドさんの様に英語でスピーチが出来なければ何処にも行けません。娘に相談すると「イーオンが絶対」との返答。娘は高校生の頃イーオンの生徒でした。早速1からスタートのイーオン通いが始まりました。そこそこ宿題をしてコツコツ授業を続けていく事10年以上。いつも歳の所為にしておりますが、覚えが悪く覚えてもすぐ忘れてしまう私がイーオンのお陰で好きな旅行を思う存分楽しませて頂いております。今は親・子・孫が信頼と感謝の心でイーオン英会話教室にお世話になっております。
いつも全員が私より若い人たちがばかりですが、お互いに英語で話す時はクラスメイト同士。私の年齢でも熱中出来る物がある事が幸せでございます。

イーオンのお陰で好きな旅行を楽しんでいます。

700点突破で自信がつかえました!!

私がイーオンに通おうと思ったきっかけは、何か自分の「強み」が欲しかったからです。今の会社に勤めて長くなってきましたが、年を取っていく中で会社に依存したくないなという思いも強くなっています。このご時世ですから、万が一何かのきっかけで今の仕事を離れることになったとしても、何か「武器」を持っていなければと考えました。そこで真っ先に挑戦したいと思ったのは「英語」です。なぜ英語だったかと言うと、実は1番のコンプレックスだったからです。あえて自分の最も自信のないものに自己投資をし、克服してやろうと、イーオンでレッスンを始めました。

仕事にも活かせる英語力をスピーディーに身に付けられるとのことで、教育訓練給付制度対象のラウンドアップレッスンを受講しました。「語学は才能」と言いますが、そのセンスが全くない私は、コツコツ地道な努力を重ねることとなりました。テキストの予習・復習に加え、ワークブックや構文練習帳をやり込むことで、語学習得の敵「忘れること」と戦いました。定着度を高めるためには予習の10倍以上復習が大事だと先生がおっしゃったので、その通りに実行しました。

イーオンはレッスン以外のサポートがとても充実しており、中でも昨年秋に参加したセルフスタディプログラムがとても有意義なものとなりました。満点教師のいる銀座校の限定コースとのことで、「TOEICテスト短期セミナー」に申し込みました。テスト解答の際のテクニックを教えてもらい、問題演習によってコツを身に付けていきました。セミナー以外では、丸山先生の速習単語記憶メソッド*に従い、通勤などの隙間時間を利用して単語を叩き込みました。その結果、1ヵ月余りで420単語、最終的には3000語ほど覚ええました。そうして受けた先日のTOEICテストでは、イーオン入学時から345点アップ! 700点突破で自信がつかえました。

今後めいっぱいイーオンを活用し、次は800点目指してレッスンにも取り組んでいきます。



原口 征士 様(会社員)
銀座校[東京都]

*「イーオンのTOEICテスト満点教師11人が教える「超」勉強法(かんき出版)の中で、丸山先生が紹介する「2反単語記憶法」のこと

仲間がいるから、がんばれる!

生徒さまの勉強法紹介 AEON My Style

ニッポンに、英語を話すよろこびを。



平橋 夏希 様(高校生)
佐賀校[佐賀県]

自己実現に
なくてはならない存在です。

イーオンに通うようになったのは中学3年生の夏頃です。当時の私は英語が苦手な第一志望の高校に受かるためにも英語は必要不可欠でした。また、毎年家族で海外旅行に行っていたことから文法力だけでなく、リスニング力、スピーキング力も伸ばしたいと思いイーオンキッズの中学生のクラスで文法と会話を学ぶことを決めました。イーオンで自分の文法力で話せるレベルまで引き上げた事はすぐに学校の成績に繋がりました。イーオンとの出会いは、私の自己実現になくてはならないものでした。

今までに3つのクラスを経験し多くの先生方との出会いがありました。多くの先生が留学や海外での仕事を経験されていて、学校では学べないことや体験談は私の価値観を広げてくれています。そんな自分の心境の変化は次第に英語という言語だけではなく、それを取り巻く人々や世界への興味を抱かれました。昨年の秋、留学を決定しその為に今は英語力向上を目指し今まで以上に英語と真正面から向き合っています。イーオンの先生からのすすめもありましたが、私自身周りの人々からの刺激を受け英語力、異文化適応力向上を目指し決断しました。イーオンの先生方のご協力のおかげで二歩ずつ目標に近づいています。毎日少しずつ、成長できるようなこれからも頑張ります!

三度の飯と同じくらい英語が好き!!

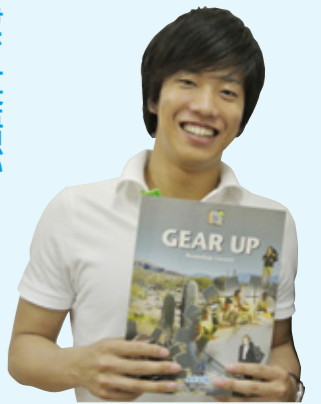


加藤 美智子 様(主婦)
淳之介 くん(中学生)
各務原校[岐阜県]

親子でイーオンへ通い始めて8年になります。共通点は三度の飯と同じくらい英語が好き。母親が英語学習を再開するために最寄りのイーオン各務原校へ通い始めたのをきっかけに息子も通うようになりました。息子は小学校1年から始めて、フォニックスをしっかり教わっているので本当に正確できれいな発音をします。私のように中学で初めて英語を学んだ者には、今の息子のイーオンでの学習空間は別世界であります。息子は中学入学後、2年生で英検2級を取得したり英字新聞を購読したりと、どんどん習得欲を増えています。

昨年の夏に訪れた米国で自分の英語が通じたことをきっかけに、今年の春は豪メルボルンでホームステイをしながら現地の中学校へ通いました。英語力が認められ、留学生のための英語集中講座をスルーして、いきなり現地人のクラスへ入れられたことに大きな自信を持ったようです。ついでに私も25年ぶりにホームステイ体験をしながら複数学校を視察してきました。というのも最近息子には長期留学がしたいという願望が芽生えてきて、母が学校選びに協力したわけです。

最後に親子の目標は英検準1級の取得、息子は漢文学者になること。えっ?漢文学者と英語?息子曰く世界中の漢文学者らと意見交換をするために共通語としての英語が不可欠だそうです。



山中 一平 様(大学院生)
東広島校[広島県]

仕事で英語が
使えるようになります。

就活で何か武器になるものが欲しい、どうせなら英語を話せるように...と思い通い始めました。イーオンで先生やカウンセラーの方と話しているうちに目標が明確になっていき、就活の為だけではなく、仕事で英語が使えるようになっていこうと考えるようになりました。そのために、まずTOEICテストの点数を就職活動までに750点、卒業までには800点まで上げる事を目標に決めました。

今までは、ミスをするのが恐くてなかなか英語を話せなかったのですが、アットホームで明るい雰囲気の中でミスも恐くなくなり、どんどん発言できるようになりました。楽しく通っているうちに、英語に対する拒絶反応がなくなり、L.Aに留学に行った時、抵抗なく英語を話すことが出来た時は自分でも驚きました。学校では教えてもらえないようなネイティブの表現方法が学べて、実際にそのフレーズを授業ですぐ使ってみられる所がイーオンの教材の好きな点でした。L.Aでも、イーオンでやったことを使うタイミングが何度もありとても助かりました。イーオンを続けて来て一番嬉しかったのは、TOEICテストのリスニングの点数が100点も上がったことです。目に見えて上達があった瞬間でした。

これからもイーオンでどんどん英語を話して、リスニング力もスピーキング力もあげていきたいです。この勢いで、就職活動も乗り切つて、外国のクライアントと重要な契約を英語でとれるようになるのが今の目標です!!

TOEIC®テストコンテスト入賞者の声

第25回 Contest

ハイスコアコンテスト
のびのびコンテスト

TOEIC®テストの高得点を取得した方や点数が伸びた方をピックアップ!

イーオンで色々な刺激を受けています!

もう受ける事はないだろうと思っていたTOEICテスト、イーオンで強く勧められてエントリーしたのは夏頃でした。最後にTOEICテストを受験したのは19年前(メールやウェブサイトの問題など皆無の時代でした)で、「TOEICテストは何問構成?」「先生方の言う、Part〇の問題とか、何だったかな」、という状態だったので、まずは前回のスコアから下がらない様にしなくては、と思いました。といっても、特にTOEICテスト対策の勉強は直前までせず、基本的にはイーオンでのレッスンに合わせて、教材をしっかりと読み込み、音声教材も時間が取れない中でも集中して聞いていました。分からない単語や目新しい表現は都度辞書にあたり、意味や用例をチェックしていました。地味な勉強ながら、やはり日常の会話もTOEICテストも同じかなと思います。ある程度の単語力がないと対応出来ないし、文を読み込む力がないと正答が見つからないと思っています。イーオンに行けば日本人教師をはじめとし、ネイティブの先生からも素朴な疑問に答えてもらえますし、文法的な解説もしてもらいました。そういう点で、一つしかないTOEICテストの答えを正しく見つけられる準備をしていた様な気がします。

直前には問題集に付属のCDを、再生速度10%増しで聞いて慣らして行きました。中・上級以上の人にはリスニング対策としてお勧めです。仕事をしながらではなかなか困難ですが、私の場合10問ごとを目標に、少しずつカフェなどで解いたりしていました。

普段の学習は、読む・聞くことが中心になっています。もう少し、書く・話すもやるべきかと感じています。今回は結果的にイーオンで色々な刺激を受けながら、最後に受験した時から40点アップすることが出来ました。



百名 良子 様(会社員)
浦和校[埼玉県]

ハイスコア
コンテスト 2位

975点

生の英語を楽しむことが大きな転換期。

浦和校に入学し早10数年、今回TOEICテストコンテスト上位入賞をかううじて達成できたことを大変嬉しく、またお世話になった先生方、スタッフの方々にも深く感謝致します。

私とTOEICテストとの出会いは、当時担任であったアメリカ人教師が、伸び悩んでいた私にTOEICテスト受験を半強制的に勧めてくれたのがきっかけでした。

800点を超えてからは試験でした。もう生涯900点を超えることはないだろうと諦めていた時、イーオン東京本社で行われる「TOEICテスト満点教師による英語力アップ勉強会」に参加する機会がありました。絶対に何かマジックがあるに違いないと思いきや、なんと、期待に反し、先生方の話は、どんなに英語が楽しいか集中し、やや愕然としました。しかし、ここで、先生方を信じ、一気に気持ちを切り替えて英語の勉強から生の英語を楽しむことに専念しようと思いを決めたのが私の大きな転換期だったと思います。

以後は、毎朝出勤前にカフェで1時間ほど、ニュースの記事を読み、分からない単語、気になる文法項目、また会話で使えそうなフレーズをノートに書き出しました。量は欲張らず、内容をきちんと理解することに専念しました。また、デイスカッションで使えそうな話題があったら、何度も音読、録音し、発音、イントネーションが自然に聞こえるまで練習し身につけるよう努力しました。リスニングと文法は先生が毎回薦めてくれるセルフスタディで着実に力をつけることができました。

そんな繰り返しの中、とにかく英語を読む、聞く、話すを楽しめてたまるくなりました。TOEICテストは「コミュニケーション能力を図るテストなので、テクニックではなく、英語をいかに味わい楽しめるかで大きな違いが出てくるはずです。それに気づかせてくれたのが、イーオンだったと今も信じています。



高下 弘司 様(会社員)
広島立町校[広島県]

ハイスコア
コンテスト 1位

975点



倉田 翔伍 様(会社員)
梅田阪急校[大阪府]

のびのび
コンテスト 1位

400点⇒745点
345点UP

「1分でも時間があるなら」という意識。

TOEICテストのリスニング問題が始まったことさえ気付かなかった私が、6月400点から11月745点と、わずか5ヶ月で345点も伸びることができました。初めて受験した時は、周りの人たちのマークシートを塗る音で、試験が始まっていることに気がきました。まだイントロかと思っていました。本当に恥ずかしかったです…。そんな私が短期間で大幅にスコアを伸ばすことができたのは「勉強への取り組み方」だと思います。

平日に関しては、隙間の時間をどううまく使うか、この点について特に意識しました。家を出るまでの時間はイーオンの予習の時間にあて、音読練習しました。オーバーラッピング・シャドーイング・音読を音声を真似る感じで感情を入れてやります。これを続けると確実に英語の耳が向上し、リスニング対策につながります。また単語100個に目を通してました。私が毎日覚えると決めた目標です。

就業時間中でも隙間があれば勉強をする、極端なことを言つと「1分でも時間があるなら」という意識です。この意識が非常に大きかったと思います。この隙間時間で朝に目を通していた単語を確実にインプットするのと、パート5対策の問題を解くこともできます。帰宅後は単語と文法を勉強し、平日でも全体で4〜5時間確保できました。休日はまだまとまった時間が取れるので、TOEICテスト問題集を本番通り時間をはかかって解き、見直しの時間にたっぷり時間を当てました。土日は8時間ほどです。これだけストイックに妥協することなく取り組めば誰でもスコアが上がりやすー要はできるできないではなく、やるかやらないかです。2014年末までに900点というのが今の目標です。イーオンには励ましてくれ、応援してくれる先生方がいます。英語に対する意欲を与えてくれた、キッカケはイーオンです。

最後に、非常に熱心な梅田阪急校のスタッフの皆様、これまでお世話になってきた方々、心からの感謝申し上げます。

映画も字幕なしで楽しめる!!

この度は、このような栄えある賞を頂き、恐悦至極です。約7年イーオン熊谷アズ校に通わせて頂いていますが、英語が大好きな私にとって、週1回のイーオンは聖地のような場所でした。毎回楽しいレッスンを受け、将来に向けて叱咤激励され、また頑張ろうと思わせて下さる、それがイーオンでした。

TOEICテスト受験を決めたのは、英語力を何らかの形にしたいと思ったからです。また、自分が実質どのように社会に貢献できるのかを知りたかったからです。私の勉強方法は至ってシンプルで、市販のテキストを買い、それを解くことの繰り返しでした。テキストを購入する際は日本人の先生に相談をして、的確に点数が上がるものを指南して頂きました。あとは試験日までの勉強スケジュールを組んで、ひたすらそれをこなしていく日々でした。分からないところがあればすぐに先生に質問をして、とにかく【のびのびコンテスト】で賞を取って、商品券で身内に何かプレゼントをしたいという気持ちで頑張りました。

イーオンの先生方はいつも前向きで、「絵里子さんなら大丈夫ですよ!」と、どんな時でも励ましてくださり、またアドバイスも親身になってくださりました。私はそれに支えられていました。TOEICテストの点が上がってからは、いろいろな変化が起こりました。ネイティブの先生ともナチュラルに会話ができ、映画も字幕なしでも楽しめるようになり、英字新聞も抵抗がなくなり、良いことばかりです。生活の視野も、なんとなく広がったような気がします。

次の目標はTOEICテストスコア900点台です。大変だとは思いますが、そこから見える景色が楽しみで頑張っています。自分に出来ることはほとんどないですが、ちょっとした努力で周りの皆さんが笑顔になるのを見るのが好きです。

今回は、本当にありがとうございました。この賞を糧にして、これからも精進していきます。



高野 絵里子 様(会社員)
熊谷アズ校[埼玉県]

のびのび
コンテスト 3位

595点⇒880点
285点UP

TOEIC®テストコンテストとは?

全国のイーオン共通で実施している、TOEICテストのスコアを競うコンテストです。入賞者には奨学金として下記金額相当の商品券をプレゼントしています。詳しくはお通りのスクールスタッフにお尋ね下さい。

ハイスコアコンテスト TOEICテスト800点以上を目指します!	
900点以上	10,000円相当 (900点以上で上位3名はプラス10,000円)
850点以上900点未満	5,000円相当
800点以上850点未満	3,000円相当

※上位100名様までを上記の通り表彰します。

のびのびコンテスト 1回目と2回目のスコアの、のび幅を競います!	
全国1位	30,000円相当<1名様>
全国2位	20,000円相当<1名様>
全国3位	10,000円相当<1名様>

※上記を含め上位30名様を表彰

◆第26回TOEICテストコンテストの結果発表は2014年10月予定です。◆第27回の受付は終了いたしました。◆第28回TOEICテストコンテストの受付は2015年2月の予定です。スクールよりご案内させていただきます。

TOEIC is a registered trademark of Educational Testing Service (ETS).
This publication is not endorsed or approved by ETS.

知っておきたい! 英語教育の現代用語集

日本の英語教育は大きく変わろうとしています。いまの学習指導要領が施行され、小学校で外国語活動が始まったほか、中学では英語時間数の増加、高校では英語を原則英語で教えることがスタートしました。そして、2020年には新しい学習指導要領が施行予定であり、その中には、小学校5-6年生で英語の教科化、外国語活動が3-4年生に引き下げられる他にも、中学英語が原則として英語で教えるようになる、また高校ではディスカッション、ディベートなどができることを目標とすることなどが検討されています。また大学入試では英語の試験にTOEFL iBTなど外部試験の導入議論も活発になってきています。

そうした時代の中で新しい用語もたくさん誕生しています。イーオンはそうした動きをいち早く感知して、すべては生徒様の上達のために取り組んできました。そのいくつかをご紹介します。

ICT教育(アイシーティーきょういく)

情報通信技術 (ICT) の利用・活用方法を教育の一環として取り入れた教育、または、ICTを駆使した教育のこと。ICTはいわゆるITの異称。授業・校務・セキュリティなどに導入され、特に授業では、電子黒板の普及とデジタルコンテンツの利用、タブレット型端末の活用が代表的。今後の学校英語教育での活用も期待されている。

【イーオンのICT教育といえば】

2013年1月より全国のスクールで一斉導入された「デジタルレッスン」は、教師がタブレット端末を操作し、教室内のTVモニターに表示する、英会話スクールのレッスンに特化したICT教育といえます。臨場感あふれる展開で会話量が増え、上達を効果的に促すと好評です。

順次対象クラスを増やし、今年9月にデジタル化する「Kick Off」クラスで、最上級クラス「Aspire」を除く、すべてのラウンドアップレッスンがデジタルレッスンとなります。



反転授業(はんてんじゅぎょう)

反転授業とは、習得予定の新たな学習内容を教室外でインターネット教材等を使用して予習しておき、学校では予習した内容の応用的な課題について教師が生徒個々に合わせた授業を行う学習方法。現在、小学校から大学まで急速に普及が進み、今後の授業の進め方として注目を集めている。

【イーオンの反転授業といえば】

2002年より始まった「イーオン・ネット・キャンパス」は、生徒様のための無料学習サイトです。PC・タブレット・スマホに対応して、各人が受講しているクラス別に、予習をオンラインで行い、レッスンで実践し、復習をオンラインで確認します。レッスンダイアログのシャドーイングや音読トレーニング、構文練習ができ、英語力向上に貢献しています。

また、キッズクラスでも2012年より「i-CLUB」がスタート。時流に先駆け、キッズ英語の向上に取り組んでいます。



CEFR(セフアール)

CEFRとは、ヨーロッパ共通参照枠Common European Framework of Reference for Languagesの略称。語学のコミュニケーション能力別のレベルを示す国際標準規格として、現在世界中で、学習者の言語運用能力を客観的に評価するために使われている。ABCの3段階をさらに2分割したA1、A2、B1、B2、C1、C2の合計6段階のレベルで言語力を表すことができ、言語機能に基づいた『Can Do Statements』によって、その言語を使って「具体的に何が出来るか」を示し、2013年12月に文部科学省が発表した「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」にも記載され、また、TOEFL、TOEICなどがCEFR対照表を発表するなど、いま最も注目を集めている用語。

【イーオンのCEFRへの取り組み】

もともとイーオンのレッスンで使うシラバス(講義計画)はCEFRに準拠するものが多かったのですが、クラスのレベル表示にCEFRを採用する予定です。各教材には「CEFRで現在のあなたのレベルは」という対照表を載せることで、今のクラスを修了すると具体的に何が出来るようになるかを、生徒様自身にもわかりやすくなります。レベル分けがCEFR準拠になることで、日本で初級ならアメリカなどでの外国人向け英語教室でも初級という具合に、国を超えた共通のものさしになると期待されています。

また、イーオンキッズではCEFR-Jに準拠した新教材の開発を検討しています。

他にも、「公教育における入口出口問題」(小学校英語の教科化、外国語活動の学年引下げを入口と捉え、大学入試の英語科目を出口と捉えた包括的な論議)や、「小学校英語教師の専科問題」「中高の英語を英語で教えるとは何か」「トビタテ留学ジャパンによる留学生倍増化計画」など、英語をめぐる社会的な動きは、近年なく活発になっています。イーオンではこれらも含む取り組みについて、イーオン/イーオンキッズ公式サイトTOPページにあるニュース&レポートや、Facebook公式ページなどを使って、継続的にお知らせしていきます。ぜひご覧ください。